

インフラツーリズムの魅力に関する基礎的研究

阿部 貴弘¹・久松 賢生²

¹ 正会員 日本大学准教授 理工学部まちづくり工学科 (〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14)

E-mail:abe.takahiro@nihon-u.ac.jp

² 非会員 株式会社丹青社 (〒108-8220 東京都港区港南 1-2-70)

E-mail: csksl3063@g.nihon-u.ac.jp

本研究は、インフラツーリズムを通じた持続的なまちづくりへの展開に資する知見を得るため、国土交通省が中心となって推進しているインフラツーリズムの取り組み事例及び土木学会選奨土木遺産に関わる取り組み事例を対象として、インフラツーリズムの魅力を明らかにすることを目的とする。

本研究では、各事例が観光対象としている土木構造物の魅力を抽出・整理するとともに、構造物種別と魅力との関係、さらに魅力の相互関係について分析した結果、国土交通省が取り組む事例と選奨土木遺産に関わる事例におけるインフラツーリズムの魅力に関して、相互の類似点及び相違点等を抽出することができた。こうした知見は、今後のインフラツーリズムの推進及びまちづくりへの展開に資する知見である。

Key Words: *infrastructure tourism, heritage tourism, attraction of tourism resources, Civil Engineering Heritage Recommended by the Japan Society of Civil Engineers*

1. 研究背景と目的

近年、我が国では、ニューツーリズムの1つとして、インフラを観光対象とするインフラツーリズムへの関心が高まっている¹⁾²⁾。たとえば、国土交通省は「インフラツーリズム PORTAL SITE」³⁾を開設し、その推進を支援しているほか、土木学会誌をはじめとする専門誌においても、インフラツーリズムに関わる特集が組まれている⁴⁾⁵⁾⁶⁾。こうしたサイトや特集で取り上げられているインフラツーリズムの実践事例は、日常生活において触れる機会の少ないインフラを観光対象として、珍しさや非日常的な体験を魅力とする取り組みが中心である。

一方、世界遺産観光に象徴されるように、歴史資源を観光対象とした遺産観光への関心も高まっている。なかでもインフラの一つである土木遺産を例にとると、土木学会が認定する選奨土木遺産を中心として、観光やまちづくりへの活用が模索されている。すなわち土木遺産は、インフラツーリズムとヘリテージツーリズムの双方の魅力を兼ね備えた観光対象といえよう。

こうしたいずれのインフラツーリズムも、インフラへの理解や土木分野への理解を深めることはもとより、日々の生活を支える身近なインフラを観光対象とすることで、生活の場であるまちに対する理解を深め、地域活性化や持続的なまちづくりへの展開も期待することができる。

しかし、現状のインフラツーリズムは、個々の事例から実践のノウハウを蓄積している段階であり、まちづくりへの展開も視野に入れ、インフラツーリズムの魅力とはいかなるものであるのか、さらに、いかにしてインフラツーリズムを持続可能な取り組みとしていくのか、それらを議論する情報や知見が整っているとは言い難い。

そこで本研究では、インフラツーリズムを通じた持続的なまちづくりへの展開に資する知見を得るため、現在のわが国のインフラツーリズムの事例、具体的には、①国土交通省が中心となって推進している取り組みと、②土木学会選奨土木遺産に関わる取り組みを対象として、それらの取り組みの実態を把握するとともに、そうしたインフラツーリズムの魅力を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

(1) 研究対象

本研究では、a) 国土交通省が開設した「インフラツーリズム PORTAL SITE」に掲載されている取り組み事例、および b) 公益社団法人土木学会が認定している「土木学会選奨土木遺産」にかかわる取り組み事例を研究対象とする。

a) インフラツーリズム PORTAL SITE

「インフラツーリズム PORTAL SITE」（以下、ポータルサイト）は、国土交通省総合政策局公共事業企画調整課がインフラツーリズムを推奨すべく運営するホームページで、国土交通省各地方整備局が所管の土木構造物の魅力を紹介するインフラツアーパネル（以下、ツアーパネル）のほか、民間の旅行会社が催行するインフラツアー（以下、民間ツアー）の情報等が掲載されている。

本研究では、2016（平成 28）年 8 月 31 日時点でこのポータルサイトに掲載されていた 47 都道府県全 53 枚のツアーパネルおよび全 17 件の民間ツアーを研究対象とする。

b) 土木学会選奨土木遺産

「土木学会選奨土木遺産」（以下、選奨土木遺産）は、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、公益社団法人土木学会が 2000（平成 12）年に創設した認定制度である。

本研究では、2016（平成 28）年 8 月 31 日時点で認定されていた選奨土木遺産全 323 件にかかわる取り組み事例を研究対象とする。

(2) 研究方法

a) 分析視点

本研究では、まず、各事例が観光対象としている土木構造物の種別を抽出・整理する。次に、観光対象とする土木構造物について、管理者やツアー主催者がどのような魅力を売りにしているのか、見学会やツアーの魅力を抽出・整理する。そのうえで、構造物種別と魅力との関係、さらに魅力の相互関係について分析する。

b) 分析方法

ポータルサイトのうち、ツアーパネルについては、各パネルに掲載されている土木構造物の種別を抽出・整理するとともに、パネルに記載されているツアー内容や土木構造物にかかわる紹介文から、管理者が売りにする魅力を抽出・類型化する。また、民間ツアーについては、各ツアーが対象としている土木構造物の種別を抽出・整理するとともに、ツアーの見出しやツアー内容の文章から、ツアー主催者が売りにする魅力を抽出・類型化する。

一方、選奨土木遺産については、選奨土木遺産の管理者に対して、次項で詳述するアンケート調査を行い、選奨土木遺産にかかわるツアーや見学会の実施状況のほか、実施している場合にどのような魅力を売りにしているのかを把握・類型化する。

こうして整理した情報に基づき、構造物種別と魅力との関係、さらにどのような魅力が組み合わされているか、魅力の相互関係についてクロス集計を行い、その結果を踏まえてインフラツーリズムの魅力について考察する。

表-1 選奨土木遺産にかかわるアンケート調査の概要

調査対象	土木学会選奨土木遺産 全 323 件 (2016（平成 28）年 8 月 31 日時点)
調査方法	調査票の郵送配布・郵送回収 (2016（平成 28）年 10 月発送 11 月回収)
調査内容	選奨土木遺産の認定及び利活用状況について (いずれの設問も選択式)
実配布数	275 件※ ※調査対象のうち、管理者が不明で調査票を郵送することのできない 48 件を除く
回収数	198 件
回収率	72.0%

表-2 選奨土木遺産にかかわるアンケート調査項目

□選奨土木遺産の認定について	・選奨土木遺産の銘板の設置場所 ・文化財等の指定状況 ・認定後の修復・整備状況 ・認定後の環境の変化 ・認定後の来訪者の変化 ・認定後の地域住民の関心の変化
□選奨土木遺産の利活用状況等について	・現在の稼働状況 ・本来の用途以外の現在の利活用状況 ・本来の用途以外の今後の利活用施策 ・観光資源として利活用することを想定した場合の魅力 ・利活用する際に想定している利用者にとっての魅力 ・本来の用途以外の利活用の取り組みにより発現したと考えられる効果

c) 選奨土木遺産に関するアンケート調査

選奨土木遺産にかかわるツアーや見学会の実施状況等を把握するため、管理者に対するアンケート調査を実施した。

表-1 および表-2 にその概要を示す。

3. 分析結果と考察

(1) ポータルサイト掲載事例の分析結果

a) 構造物種別

ポータルサイトの事例のうち、ツアーパネルに掲載されている土木構造物の種別を図-1 に、民間ツアーが対象としている土木構造物の種別を図-2 に示す。

ツアーパネルについては、「ダム堤体」が最も多く、以下、「道路」、「ダム湖」、「河川」、「港湾」の順に多い。民間ツアーは、ツアーパネル同様、「ダム堤体」が最も多く、以下、「ダム湖」、「橋梁」、「道路」、「港湾」の順に多い。

対象構造物	件数
ダム堤体	21
道路	11
ダム湖	5
河川	4
港湾	4
公園	3
橋梁	2
砂防	1
その他	11
計	62

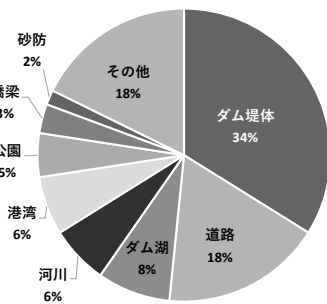


図-1 ツアーパネルの土木構造物種別

対象構造物	件数
ダム堤体	8
ダム湖	3
橋梁	3
道路	2
港湾	2
河川	1
砂防	0
公園	0
その他	0
計	19

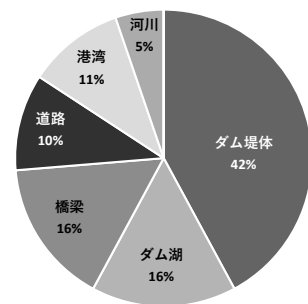


図-2 民間ツアーの土木構造物種別

b) 魅力類型

ツアーパネルから抽出した魅力の類型を図-3 に、民間ツアーから抽出した魅力の類型を図-4 に示す。

ツアーパネルでは、「普段は入れない場所の見学」や「期間限定の工事現場の見学」「施設内での操作・実体験」といった“珍しさ”を魅力とする事例が多く、また、「対象物のスケールの体感」や「通常と違った視点からの眺望」「絶景の眺望」といった“非日常の体験”を魅力とする事例も多い。

一方、「他の観光資源の見学」といった周辺地域との連携を意識した魅力は比較的少ない。また、「期間限定の工事現場の見学」については、インフラの理解にはつながるものの、工事が竣工すれば観光対象ではなくなることから、持続的な魅力であるとは言い難い。

民間ツアーでは、ツアーパネル同様、「普段は入れない場所の見学」や「期間限定の工事現場の見学」といった“珍しさ”を魅力とする事例が多く、また、「非日常的な乗り物に乗った散策」や「通常と違った視点からの眺望」「絶景の眺望」といった“非日常の体験”を魅力とする事例も多い。ツアーパネルに比べ、フェリーや水陸両用車といった「非日常的な乗り物に乗った散策」を魅力とする事例の割合が高く、これは民間の有料ツアーならではの魅力である。

一方、ツアーパネル同様、周辺地域との連携を意識した魅力は少ない。

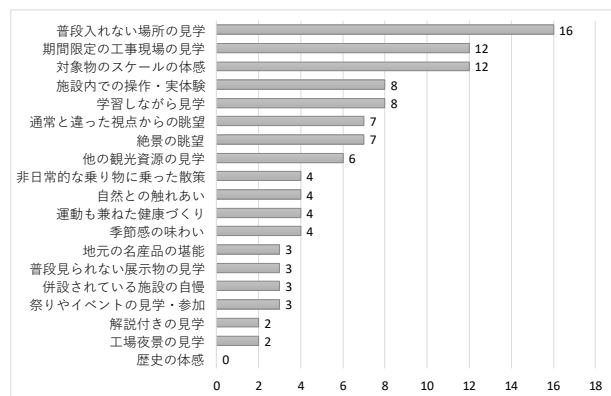


図-3 ツアーパネルの魅力類型

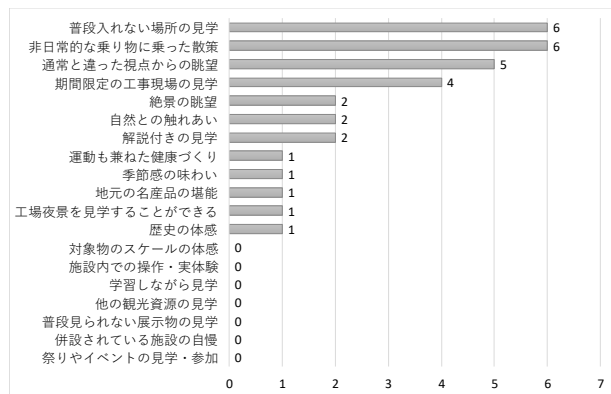


図-4 民間ツアーの魅力類型

c) 構造物種別と魅力との関係

ツアーパネルの土木構造物種別と魅力との関係を表-3 に、民間ツアーの土木構造物種別と魅力との関係を表-4 に示す。

ツアーパネルでは、まず、構造物種別に着目すると、「ダム堤体」及び「ダム湖」に幅広い魅力が付加されている。なかでも、「普段は入れない場所の見学」「対象物のスケールの体感」「絶景の眺望」といった、珍しさや非日常の体験を魅力とする事例が多い。一方、「道路」では「期間限定の工事現場の見学」，「港湾」では「通常と違った視点からの眺望」及び「非日常的な乗り物に乗った散策」といったように、魅力に偏りがみられる構造物種別もある。

次に、魅力類型に着目すると、「対象物のスケールの体感」は幅広い構造物種別で魅力とされているが、「普段は入れない場所の見学」及び「期間限定の工事現場の見学」は「ダム堤体」及び「道路」に偏っている。また、「通常と違った視点からの眺望」は「ダム堤体」及び「港湾」に、「絶景の眺望」は「ダム堤体」及び「ダム湖」に偏っている。

民間ツアーについては、件数が少ないため、明確な特徴を読み取ることはできないが、おおむねツアーパネルと相違ない傾向である。なお、「非日常的な乗り物に乗った散策」は、「ダム堤体」「ダム」「河川」「港湾」といった水辺の構造物種別に偏っている。

表-3 ツアーパネルの土木構造物種別と魅力との関係

魅力		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
構造物種別																				
ダム堤体	10	4	6	3	3	4	6	3	2	2	2	2	2	0	1	1	1	1	0	
ダム湖	2	0	2	1	0	2	3	1	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	
道路	3	6	0	2	1	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	
橋梁	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	
河川	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
港湾	0	1	1	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
砂防	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
公園	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
その他	2	1	3	3	4	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2	1	0	0	0	

3件以上に網掛

魅力の凡例	
A. 普段入れない場所の見学	K. 運動も兼ねた健康づくり
B. 期間限定の工事現場の見学	L. 季節感の味わい
C. 対象物のスケールの体感	M. 地元の名産品の堪能
D. 施設内での操作・実体験	N. 普段見られない展示物の見学
E. 学習しながら見学	O. 併設されている施設の自慢
F. 通常と違った視点からの眺望	P. 祭りやイベントの見学・参加
G. 絶景の眺望	Q. 解説付きの見学
H. 他の観光資源の見学	R. 工場夜景を見学
I. 非日常的な乗り物に乗った散策	S. 歴史の体感
J. 自然との触れあい	

表-4 民間ツアーの土木構造物種別と魅力との関係

[illegible]

3件以上に網掛

魅力の凡例	
A. 普段入れない場所の見学	K. 運動も兼ねた健康づくり
B. 期間限定の工事現場の見学	L. 季節感の味わい
C. 対象物のスケールの体感	M. 地元の名産品の堪能
D. 施設内での操作・実体験	N. 普段見られない展示物の見学
E. 学習しながら見学	O. 併設されている施設の自慢
F. 通常と違った視点からの眺望	P. 祭りやイベントの見学・参加
G. 絶景の眺望	Q. 解説付きの見学
H. 他の観光資源の見学	R. 工場夜景の見学
I. 非日常的な乗り物に乗った散策	S. 歴史の体感
J. 自然との触れあい	

d) 魅力の相互関係

ツアーパネルの魅力の相互関係を表-5 に、民間ツアーの魅力の相互関係を表-6 に示す。

ツアーパネルでは、「普段入れない場所の見学」「対象物のスケールの体感」「絶景の眺望」が、他の魅力との組み合わせが多い。これら3つの魅力類型は、相互に組み合わせられることが多く、珍しさや非日常の体験を相互に組み合わせることで魅力づくりをする傾向がある。また、「通常と違った視点からの眺望」と「非日常的な乗り物に乗った散策」の組み合わせも比較的多く、前項の分析結果を踏まえると、たとえばダム湖上や海上からの眺望が魅力として付加されている。

一方、「期間限定の工事現場の見学」については、魅力類型の総数(図-3)は多いのに対して、他の魅力との組み合わせは比較的少ない傾向にある。

表-5 ツアーパネルの魅力の相互関係

[illegible]

表-6 民間ツアーの魅力の相互関係

[illegible]

対象構造物	件数
橋梁	74
水道	19
河川	16
トンネル	13
発電	12
ダム・堰堤	11
港湾	11
砂防	8
水門	8
用水	7
灯台	6
鉄道	4
道路	4
下水道	2
鉱山	2
干拓	2
その他	9
計	208

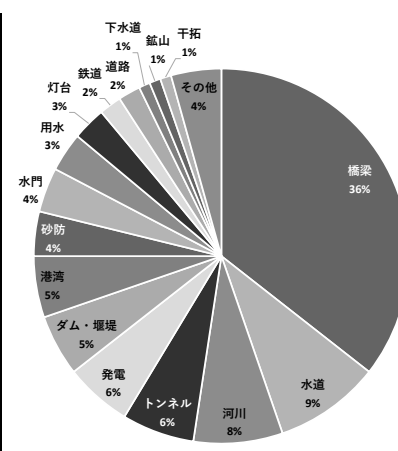


図-5 選奨土木遺産の土木構造物種別

民間ツアーでは、「普段入れない場所の見学」及び「通常と違った視点からの眺望」「非日常的な乗り物に乗った散策」相互の魅力の組み合わせが多い。

(2) 選奨土木遺産にかかわる取り組み事例の分析結果

a) 構造物種別

選奨土木遺産の構造物種別(図-5)では、「橋梁」が突出して多く、約4割を占めている。以下、「水道」「河川」「トンネル」「発電」「ダム・堰堤」「砂防」の順に多い。

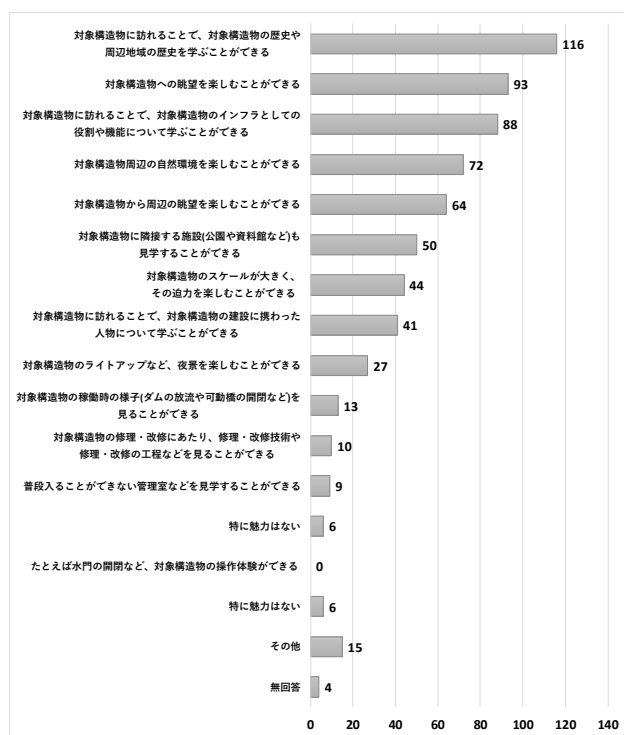


図-6 選奨土木遺産の魅力類型

b) 魅力類型

観光資源として活用することを想定した場合の魅力の類型（図-6）では、「対象構造物の歴史や周辺地域の歴史を学ぶことができる」が最も多く、以下、「対象構造物への眺望を楽しむことができる」「インフラとしての役割や機能について学ぶことができる」「周辺の自然環境を楽しむことができる」「周辺の眺望を楽しむことができる」の順に多い。

選奨土木遺産では、ポータルサイトと比べ、歴史やインフラの役割・機能を学習することや、景観や自然環境を楽しむことが魅力として強く意識されている。一方、ポータルサイトで見られた“珍しさ”や“非日常の体験”に関わる魅力は、それほど意識されていない。また、ポータルサイトでは、インフラから周辺への眺望を楽しむことが魅力であったが、選奨土木遺産では、周辺への眺望に加え、周辺から対象構造物への眺望も魅力として意識されている。

c) 構造物種別と魅力との関係

構造物種別と魅力との関係（表-7）を見ると、選奨土木遺産では、ポータルサイトに比べ、全体としていずれの構造物種別でも幅広い魅力が意識されている。一方、ポータルサイトで見られた“珍しさ”や“非日常の体験”については、魅力として意識されている構造物種別はあるものの、それらが特筆すべき魅力として意識されていない。

個別に見ると、「砂防」を除くすべての構造物種別で「対象構造物の歴史や周辺地域の歴史を学ぶことができる」ことが魅力として意識されている。

表-7 選奨土木遺産の土木構造物種別と魅力との関係

魅力 構造物種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
道路	3	2	2	4	2	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0
橋梁	33	40	30	22	25	12	11	8	13	1	2	0	4	0	4
トンネル	10	4	9	6	4	3	3	4	0	1	0	0	0	0	2
河川	14	6	9	6	1	6	5	9	1	1	0	0	0	0	0
ダム・堰堤	6	7	5	6	4	1	4	1	0	5	3	1	0	0	0
水門	7	5	2	2	2	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0
砂防	3	3	5	5	2	3	4	1	0	0	1	0	0	0	0
港湾	8	4	6	1	3	3	3	5	1	1	1	0	0	0	1
灯台	3	5	1	1	5	2	1	0	2	1	0	3	0	0	0
鉄道	2	3	0	2	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1
水道	7	5	11	4	7	5	2	2	3	3	1	1	1	0	4
下水道	2	0	2	1	0	2	0	2	1	0	0	1	0	0	0
発電	7	6	6	3	1	1	0	0	0	2	1	1	0	0	1
用水	6	3	3	3	2	6	2	5	0	0	0	1	0	0	1
干拓	2	1	1	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
鉱山	2	2	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	6	5	1	5	4	2	4	3	3	0	1	1	1	0	2

各構造物種別で上位3位以内の魅力に網掛

魅力の凡例一覧
1. 対象構造物に訪れることで、対象構造物の歴史や周辺地域の歴史を学ぶことができる。
2. 対象構造物への眺望を楽しむことができる。
3. 対象構造物に訪れることで、対象構造物のインフラとしての役割や機能について学ぶことができる。
4. 対象構造物周辺の自然環境を楽しむことができる。
5. 対象構造物から周辺の眺望を楽しむことができる。
6. 対象構造物に隣接する施設(公園や資料館など)も見学することができる。
7. 対象構造物のスケールが大きく、その迫力を楽しむことができる。
8. 対象構造物に訪れることで、対象構造物の建設に携わった人物について学ぶことができる。
9. 対象構造物のライトアップなど、夜景を楽しむことができる。
10. 対象構造物の稼働時の様子(ダム放流や可動橋の開閉など)を見ることができる。
11. 対象構造物の修理・改修にあたり、修理・改修技術や修理・改修の工程などを見ることができる。
12. 普段入ることができない管理室などを見学することができる。
13. 特に魅力はない
14. たとえば水門の開閉など、対象構造物の操作体験ができる
15. その他

また、「対象構造物への眺望を楽しむことができる」ことや、「インフラとしての役割や機能について学ぶことができる」ことも、比較的多くの構造物種別で魅力として意識されている。さらに、ポータルサイトでは見られなかった「対象構造物の建設に携わった人物について学ぶことができる」ことも、比較的多くの構造物種別で魅力として意識されている。

d) 魅力の相互関係

魅力の相互関係（表-8）を見ると、選奨土木遺産では、ポータルサイトに比べ、全体として複数の魅力が相互に組み合わせられている。たとえば、ポータルサイトで見られた「道路」の魅力は「期間限定の工事現場の見学」に偏るといったように、個々の構造物種別に特化した魅力ではなく、それぞれ多面的な魅力が意識されている。

また、“学習”“景観”“自然環境”に関わる魅力が相互に組み合わせられることが多く、これも選奨土木遺産の特徴である。

表-8 選奨土木遺産の魅力の相互関係

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
1. 対象構造物に訪れることで、対象構造物の歴史や周辺地域の歴史を学ぶことができる		54	66	52	41	40	32	38	16	7	6	7	0	0	6	365
2. 対象構造物への眺望を楽しむことができる	54		41	39	46	29	36	19	22	8	4	4	0	0	7	309
3. 対象構造物に訪れることで、対象構造物のインフラとしての役割や機能について学ぶことができる	66	41		35	32	30	23	27	10	7	7	5	0	0	0	283
4. 対象構造物周辺の自然環境を楽しむことができる	52	39	35		35	24	27	15	9	6	4	4	0	0	5	255
5. 対象構造物から周辺の眺望を楽しむことができる	41	46	32	35		21	24	12	14	5	5	7	0	0	5	247
6. 対象構造物に隣接する施設(公園や資料館など)も見学することができる	40	29	30	24	21		17	20	9	3	4	2	0	0	4	203
7. 対象構造物のスケールが大きく、その迫力を楽しむことができる	32	36	23	27	24	17		11	10	7	3	2	0	0	2	194
8. 対象構造物に訪れることで、対象構造物の建設に関わった人物について学ぶことができる	38	19	27	15	12	20	11		7	3	3	2	0	0	5	162
9. 対象構造物のライトアップなど、夜景を楽しむことができる	16	22	10	9	14	9	10	7		2	3	3	0	0	2	107
10. 対象構造物の種類時の様子(ダムでの放流や可動橋の開閉など)を見ることができる	7	8	7	6	5	3	7	3	2		2	1	0	0	0	51
11. 対象構造物の修理・改修にあたり、修理・改修技術や修理・改修の工程などを見ることができる	6	4	7	4	5	4	3	3	3	2		2	0	0	1	44
12. 普段入ることができる管理室などを見学することができる	7	4	5	4	7	2	2	2	3	1	2		0	0	0	39
13. 特に魅力はない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	1	1
14. たとえば水門の開閉など、対象構造物の操作体験ができる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
15. その他	6	7	0	5	5	4	2	5	2	0	1	0	1	0		38

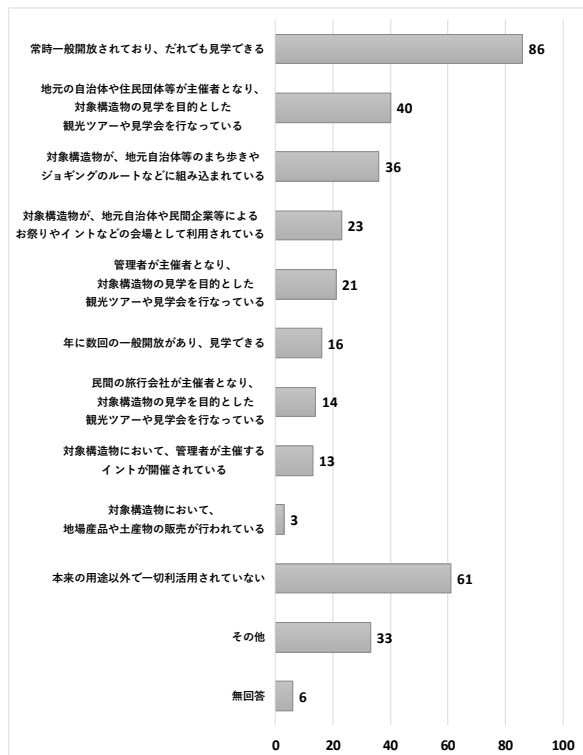


図-7 選奨土木遺産の本来用途以外の利活用状況

e) 利活用状況と波及効果

選奨土木遺産において、本来用途以外での利活用状況を図-7 に、利活用する際に想定している利用者にとっての魅力を図-8 に、本来の用途以外の利活用の取り組みにより発現したと考えられる効果を図-9 に示す。

本来用途以外での利活用状況としては、「観光ツアーや見学会」を開催している事例が多く、地元及び管理者、さらに民間旅行会社いずれかが主催するツアーや見学会を実施している事例は、全 198 件中 57 件 (28.8%) であった。また、「まち歩きやジョギングルートに組み込まれている」事例も 36 件 (18.2%) に上った。

本来用途以外での利活用する際に想定している魅力としては、観光対象としての魅力 (図-6) と同様の魅力に

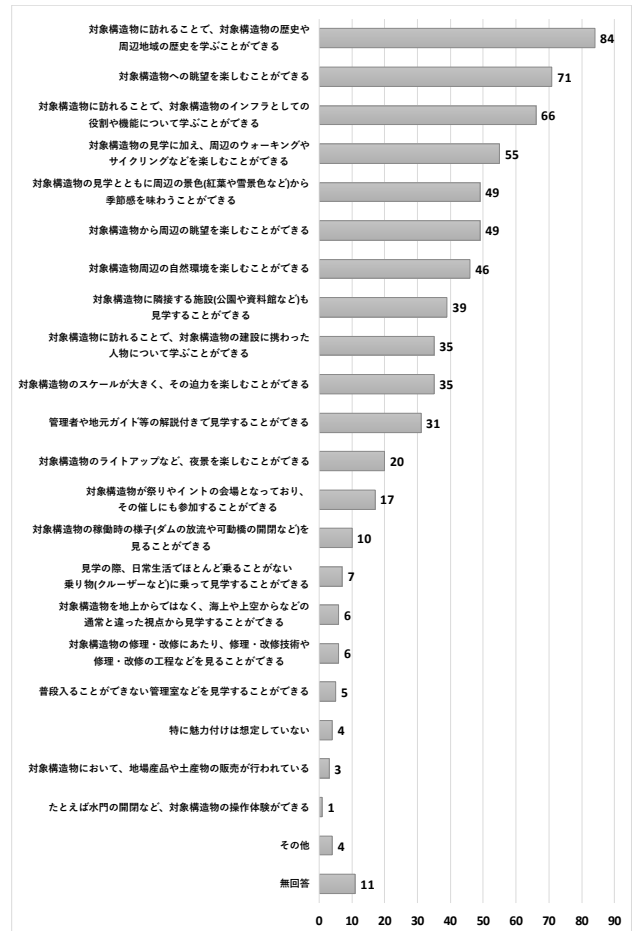


図-8 選奨土木遺産を利活用する際の魅力

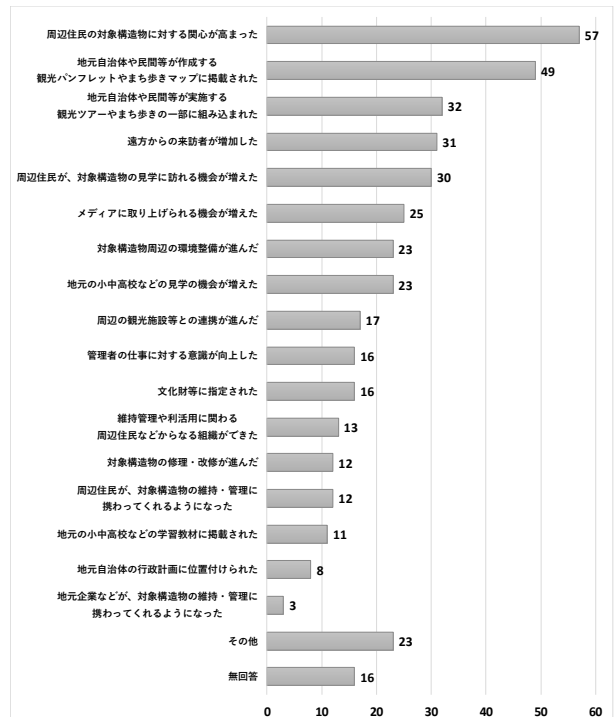


図-9 選奨土木遺産の利活用の取り組みにより発現した効果

加え、「周辺のウォーキングやサイクリング」「周辺の景色から季節感を味わう」といった、構造物の周辺に関わる魅力も意識されている。

本来の用途以外の利活用の取り組みにより発現したと考えられる効果としては、「対象構造物に対する関心が高まった」とする事例が最も多く、本来の用途以外の利活用をしている全 131 事例中 57 事例 (43.5%) に上った。また、「観光パンフレットやまち歩きマップに掲載された」とする事例が 49 事例 (37.4%)、「観光ツアーやまち歩きの一部に組み込まれた」とする事例が 32 事例 (24.4%) となった。さらに、「遠方からの来訪者が増加した」とする事例が 31 事例 (23.7%)、「周辺住民が、対象構造物の見学に訪れる機会が増えた」とする事例が 30 事例 (22.9%) となった。

このように、土木遺産の本来用途以外の利活用の取り組みにより、観光対象としての顕在化が進むとともに、周辺住民の意識向上やまち歩きマップ掲載による周辺地域との連携の促進、さらに来訪者の増加といった、まちづくりへの展開の糸口として期待することのできる効果も発現している。

(3) インフラツーリズムの魅力に関する考察

ポータルサイトでは、“珍しさ”や“非日常の体験”を魅力とする事例が多いのに対し、周辺地域との連携を意識した魅力は比較的少ない。また、「期間限定の工事現場の見学」といった、いわば一過性の魅力にとどまる事例が多い。

構造物種別と魅力の関係をみると、「ダム」に関しては幅広い魅力付けがなされているものの、他の構造物種別では、たとえば「道路」は「期間限定の工事現場の見学」といったように、魅力に偏りがみられる構造物種別もある。さらに、魅力の相互関係を見ると、“珍しさ”や“非日常の体験”を相互に組み合わせて魅力づくりをする傾向がある。

一方、選奨土木遺産では、ポータルサイトとは対照的に、“珍しさ”や“非日常の体験”に関わる魅力はそれほど意識されておらず、“学習”や“景観”“自然環境”に関わる魅力が強く意識されている。なお、“景観”に関しては、ポータルサイトでは、インフラから周辺への眺望が魅力であったが、選奨土木遺産では、周辺から対象構造物への眺望も魅力として意識されている。

構造物種別と魅力との関係を見ると、選奨土木遺産では、いずれの構造物種別においても、“学習”“景観”“自然環境”に関わる魅力をはじめ、幅広い魅力が意識されている。また、魅力の相互関係を見ても、全体として複数の魅力が相互に組み合わされており、各構造物種別に多面的な魅力が意識されている。

こうした、ポータルサイトの事例と選奨土木遺産の事例との相違の背景には、以下の要因があると考ええる。

まず、選奨土木遺産は戦前に建設された土木構造物が多く、それらは戦後に建設された土木構造物に比べ小規

模であることから、スケールの大きさを魅力として意識しにくいと考える。また、選奨土木遺産は、竣工後少なくとも 50 年以上経過していることから、その存在がすでにあたりまえとなっており、“珍しさ”あるいは“非日常の体験”を魅力として意識しにくいと考える。しかし、ポータルサイトの事例にみられるように、選奨土木遺産においても、普段入れない場所の見学や修理・修復に際しての工事現場の見学、さらに施設内での操作・体験といった、“珍しさ”や“非日常の体験”を魅力とすることも可能であり、今後のインフラツーリズムの推進にあたっての課題として指摘することができる。

一方、選奨土木遺産は、その認定に際して歴史的価値をはじめとする価値付けが行われている。選奨土木遺産を観光対象としてとらえる際、そうした価値を顕在化することにより、多面的な魅力を意識することができると考える。つまり、ポータルサイトの事例で取り上げられている土木構造物においても、観光対象としてとらえる際、インフラとしての役割や機能の視点だけではなく、たとえば歴史・文化的視点からその価値を評価することで、多面的に魅力付けをすることができると考える。

加えて、選奨土木遺産において、本来用途以外での利活用を通して、観光対象としての顕在化とともに、まちづくりへの展開の糸口として期待することのできる効果の発現もみられることから、ポータルサイトの事例においても、前述の多面的な魅力付けにより、まちづくりへの展開を期待することができると考える。

なお、本研究では、ポータルサイト及び選奨土木遺産のいずれも、管理者もしくは主催者が想定する魅力の分析にとどまっている。そのため、インフラツーリズムの参加者が何を魅力として期待しているのか、参加者側から見たインフラツーリズムの魅力に関する分析は、今後の課題である。

4. まとめ

本研究では、国土交通省が中心となって推進しているインフラツーリズムの取り組み事例及び土木学会選奨土木遺産に関わる取り組み事例を対象として、各事例が観光対象としている土木構造物の魅力を抽出・整理するとともに、構造物種別と魅力との関係、さらに魅力の相互関係について分析した。そうした分析結果を踏まえ、国土交通省が取り組む事例と選奨土木遺産に関わる事例におけるインフラツーリズムの魅力に関して、相互の類似点及び相違点を見出すとともに、その要因について考察した。

こうした知見は、今後のインフラツーリズムの推進とともに、インフラツーリズムのまちづくりへの展開に資する知見である。

謝辞：アンケート調査にご協力いただいた選奨土木遺産の管理者の皆様に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 国土交通省観光庁編：平成 26 年版 観光白書，p87，昭和情報プロセス，2014
- 2) 国土交通省観光庁編：平成 27 年版 観光白書，p97，p139，日経印刷，2015
- 3) <https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/>
(2016 (平成 28) 年 8 月 31 日閲覧)

- 4) 特集 土木と観光，土木学会誌 vol.93 no.5，pp.17-32，土木学会，2008
- 5) 特集 土木観光の現在，土木学会誌 vol.99 no.6，pp.6-37，土木学会，2014
- 6) 特集 土木と観光，土木技術 vol.71 no.8，pp.8-43，土木技術社，2016

(2017.4.10 受付)